



編集・発行

県南教育事務所



「子どもの言葉にならない言葉に耳を傾けて」

矢吹町教育委員会教育長 大杉和規

「何をどうすればいいのだろう」
 教育長となった一昨年(2023)の4月1日。私は、教育長室で考えあぐねていました。

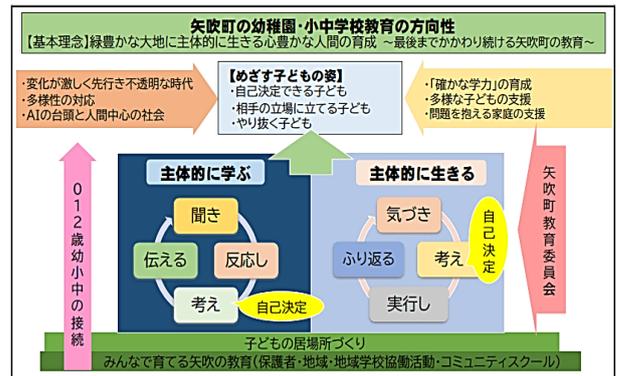
しかし、町内の保育所、認定こども園、幼稚園、小中学校、児童クラブ、複合施設KOKOTTOなどを巡り、子どもの姿を見て、子どもの声に耳を傾け、学校運営協議会や地域学校協働本部会議で地域の方々の声を聞き、やるべきことが見えてきました。

私は、これまで、子どもの言葉にならない言葉をしっかりと受け止めることが大切だと考え、学校経営に取り組んできました。子どもの気持ちや思いを知るにより、何をどうすべきなのが見えてきます。

2021年NHKの朝ドラ「カムカムエヴリバディ」のおいしいあんこを作るための「あんこのおまじない」と一緒です。

「小豆の声を聴けえ。時計に頼るな。目を離すな」
 「何ゆしてほしいか小豆が教えてくれる」……

子どもの声を聞き、子どもの言葉にならない言葉をしっかりと受け止め、「立派に育て！立派に育て！」と思いを込めてかかわっていく。そんな学校教育を進めたいと考え、R5年4月、構想を右図にまとめました。



めざす子どもの姿は、「自己決定できる子ども」「相手の立場に立てる子ども」「やり抜く子ども」。変化が激しく先行きが不透明な時代を、たくましく生き抜く子どもの姿です。

基本理念のサブタイトルは、「最後までかかわり続ける矢吹町の教育」。子どもの成長には、教職員の適切で誠実なかかわりが欠かせません。子どもの言葉にならない言葉をしっかりと受け止め、最後の最後までかかわり続ける教職員と、最後の最後まで学校を支え続ける教育委員会の職員と共に、矢吹町の教育に取り組んでいきたいと考えています。

令和5年度教育・文化関係表彰

- 叙 勲
 - 春の叙勲(瑞宝双光章)
 - 元白河市立白河第二中学校 校長 金子 英昭
 - 元白河市立白河第一小学校 校長 藤田 充
 - 文化功労者
 - しらかわ音楽の祭典実行委員長 浅川 なおみ
- 文部科学大臣表彰
 - 小学校教育功労者
 - 元白河市立白河第二小学校 校長 菅野 由信
 - 優秀教職員表彰(個人)
 - 白河市立大信小学校 教諭 小松 莊子
 - 棚倉町立棚倉小学校 教諭 佐藤 真理
 - 塙町立塙小学校 教諭 森 裕美子
 - 子供の読書活動優秀図書館
 - 矢祭もったいない図書館
- 県教育委員会表彰
 - 地方教育行政功労者
 - 西郷村教育委員会委員 勝又 千賀子
 - 学校体育・学校保健功労者
 - 泉崎村立泉崎第一小学校他 学校歯科医 赤沼 龍一
 - 福島県立白河高等学校 学校薬剤師 五十嵐迪子
 - 教育・文化関係表彰(優秀教職員の部)
 - 棚倉町立棚倉小学校 教諭 藤田 由紀
 - 西郷村立西郷第一中学校 教諭 宮川 智典
 - 永年勤続教職員表彰
 - 小・中学校 23名
 - 県立学校 7名
- 教職員研究論文
 - (団体)【特選】棚倉町立棚倉小学校【入選】塙町立塙小学校
 - (個人)【入選】泉崎村立泉崎中学校 養護教諭 渡邊 理紗
- ふくしまっ子体力向上優秀校表彰
 - 白河市立白河第三小学校 棚倉町立棚倉中学校
- ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞
 - 白河市立五箇中学校 中島村立中島中学校
 - 塙町立塙中学校
- ふくしまっ子元気大賞表彰
 - 白河市立小野田小学校
- 県学校歯科保健優良校表彰
 - 優秀賞
 - 白河市立釜子小学校 西郷村立羽太小学校
 - 白河市立白河第一小学校 西郷村立小田倉小学校
 - 西郷村立米小学校
 - 努力賞
 - 中島村立滑津小学校 中島村立吉子川小学校
 - 白河市立東中学校 中島村立中島中学校
 - 奨励賞
 - 白河市立五箇小学校
 - 優秀活動奨励賞
 - 西郷村立熊倉小学校
 - 活動奨励賞
 - 白河市立白河南中学校 棚倉町立棚倉中学校
- 県学校保健会表彰
 - 学校保健功労者
 - 学校医 國井正剛(白河市立大信小学校他)
 - 学校歯科医 早坂 弘(白河市立開辺小学校)
 - 学校薬剤師 谷澤雅司(白河市立みさか小学校)
 - 学校保健会感謝状
 - 前学校薬剤師 井上律子(鮫川村立鮫川中学校他)
- 第26回よい歯の幼稚園・こども園表彰
 - 努力賞
 - 泉崎村立泉崎幼稚園
 - 奨励賞
 - 矢祭町立やまつりこども園

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進 学校教育課 令和5年度事業の成果

生徒指導と道徳教育の充実

県南教育事務所では、今年度の重点支援に「不登校の未然防止」と「学校教育全体で取り組む道徳教育の推進」を設定し、取り組んでまいりました。

「不登校の未然防止」については、生徒指導訪問を通して、各校の不登校児童生徒の状況把握や、各校で取り組まれている支援についての話し合いを行いました。特に、改訂された生徒指導提要で示されている「発達支持的生徒指導」に重点を置いた支援やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携も含めた組織的な支援について確認しました。生徒指導提要については、5月に開催した「不登校いじめ等対策推進事業域別シンポジウム」だけでなく、教育事務所が開催した各種研究協議会において、さまざまな立場の先生方に周知しました。生徒指導を推進する上での基本指針として、各校の実態に応じて活用していただきたいと思います。

「学校教育全体で取り組む道徳教育の推進」については、光南高等学校を会場として開催した道徳教育地区別推進協議会において、高等学校における道徳教育の実践や道徳教育推進教師の役割についての協議、学校・家庭・地域の連携をテーマとした講演を設定しました。保護者や地域住民にも参加していただき、連携の下での道徳教育の充実について、研修を深めることができました。



「健康課題解決に向けた基盤づくり」

全国体力・運動能力調査の結果、県南域内では、下の表のとおり、小5・中2男女とも、全国・県平均を上回りました。また、肥満傾向児出現率においては、小学男女・中学女子において、昨年度より改善が見られました。これは、学校全体で自校の健康課題に組織的に取り組んでいただいた成果であります。

さて、自校の質問紙調査の結果はいかがでしたか。スポーツ庁の調査報告書によると、児童生徒は、体育・保健体育の授業が楽しくなるには「自分のペースで行うこと」「自分に合った場やルールで行うこと」「友達と学ぶこと」をあげています。体力向上の取組の中心となるのは授業です。すべての児童生徒にとって「楽しい体育・保健体育の授業」を目指し、今後も授業の充実に取り組んでいただきたいと思います。

全国体力・運動能力調査 合計得点の比較				肥満傾向児出現率		
	小学5年男子		小学5年女子		前年度との比較	
	全国	県南	全国	県南	出現率	
県南合計得点	53.46	56.44				
全国得点・県南比較	52.60	0.86	54.29	2.15	小学男子	15.3
県得点・県南比較	52.27	1.19	55.01	1.43	(前年比)	▲ 0.7
R4県南得点比較	53.97	▲ 0.51	56.83	▲ 0.39	小学女子	12.1
					(前年比)	▲ 0.2
県南合計得点	41.88	48.43			中学男子	15.0
全国得点・県南比較	41.18	0.70	47.08	1.35	(前年比)	0.1
県得点・県南比較	41.24	0.64	47.77	0.66	中学女子	11.8
R4県南得点比較	41.25	0.63	49.08	▲ 0.65	(前年比)	▲ 0.1

資質・能力の育成と学力向上

12月12日に学力向上担当者等研修会を開催しました。各種調査結果分析という、ついつい正答率や特定の教科・領域の低さに目がいきがちですが、日々の授業や教師のかかわりは、子どもの伸びに確実に繋がっており、調査結果に表れています。

そこで今回は、ふくしま学力調査分析支援プログラムを1つのツールとして、自校の伸びにつながった取組を調べる演習を行いました。それを踏まえて協議では、他校の取組を共有したり今後の取組を検討したりしました。参加者からは、

- ・本校の研究と関わる部分で、「既習とつなげて考えること」「学習過程を振り返ること」と学力の伸びに相関があることがわかった。
- ・自校の強みは、「わかるまで教えてくれる」「よさを認める」「ほめてくれる」でした。現職で取り組んできたことが成果に表れていたため、先生方と今年度の頑張りや成果を共有したいです。
- ・生徒の疑問に寄り添い、質問しやすい学習環境を整えてきたことが学力向上につながると感じました。

等と、児童生徒への学習指導の成果を実感する先生方の姿がありました。このように、教師の見取りと各種調査結果分析等を併用して児童生徒の実態を詳細に捉えていくこと（エビデンスに基づく授業の充実・改善）が大切です。児童生徒の「わかった!」「もっと使ってみよう!」を保障する計画の立案に生かしていきましょう。

「特別支援教育の推進」

県南教育事務所では、「多様な学びの場における教育の充実・整備の推進」と「切れ目のない支援の充実」を重点にあげ、様々な取組を行ってまいりました。各種訪問における指導助言の他、「地域支援体制整備事業」において、担当者の専門性向上及び個別の教育支援計画の作成と引継ぎ・活用に向けた相談・研修支援を行ってまいりました。

県南域内では、1月末現在、相談支援41件（延べ95件）、研修支援18件の依頼があり、特別支援学校と連携しながら支援を行っています。研修支援においては、「個別の教育支援計画の作成・活用」に向けた研修内容を充実させ、依頼があった複数の市町村において実施することができました。参加者からは、「演習により、書き方のポイントがわかりやすく学べた」といった感想が聞かれました。

相談支援は、昨年度と同じ時期と比較すると、27件増（延べ41件増）となっています。また、延べ件数95件のうち、68件（72%）が通常の学級からの依頼です。どの学級にも支援を要する子どもが存在することを念頭に置いた学級・授業づくりに日々悩む先生方のニーズに応じた支援も一層充実させたいと思います。



社会に開かれた教育課程実現のために

～コミュニティ・スクール(CS)と地域学校協働活動の一体的推進～

令和5年6月16日閣議決定された第四期教育振興基本計画には、目標9 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上「学校・家庭・地域が連携・協働することにより、地域社会との様々な関わりを通じて子供たちが安心して活動できる居場所づくりや地域全体で子供たちを育む学校づくりを推進する」が示されました。その基本施策の一つとして「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」があげられています。

今年度もコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査(調査基準日令和5年5月1日)が文部科学省より公表されました。その調査内容と県南地区の状況を比較すると次のようになります。

- ① 全国公立小・中・義務教育学校におけるコミュニティ・スクールの導入率(県南地区:52校中31校)
【全国 58.3% 福島県 45.1% 県南地区 59.6%】
- ② 全国公立小・中・義務教育学校における地域学校協働本部整備率(県南地区:52校中31校)
【全国 71.7% 福島県 73.8% 県南地区 59.6%】

県南域内のコミュニティ・スクールの導入率は全国・県より高い数値になっています。コミュニティ・スクールを導入することでよい意味で変化を感じている学校がある一方で、効果を実感できていない学校も多いのではないのでしょうか。その原因の一つに「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動それぞれを正しく理解していない」ことがあげられます。今後もコミュニティ・スクールと地域学校協働活動について正しく理解を深める機会を作ってまいります。

〔今年度の取組より〕地域連携担当教職員等研修会12/4 実践発表「三神小学校の取組」、講義演習「新しい時代CSと地域学校協働活動の一体的推進」について研修を行いました。参加者からは「CSについて誤って理解していることに気付かされた。」「CSは、子供に育む資質能力を地域と一緒に考え、達成していくためのツールであることを学んだ。」等の感想がありました。



熟議の様子

学校紹介

「統合・閉校は新たな歴史のスタート」

白河市立五箇中学校

本校は、昭和22年4月25日、西白河郡五箇村立五箇中学校として205名の生徒とともにその歩みを始めました。昭和30年3月1日には、白河市との合併をもって白河市立五箇中学校となりましたが、残念ながら今年度末をもって77年間の歴史に幕を閉じることとなりました。閉校100日前にあたる12月23日(土)には閉校記念カウントダウンセレモニーを開催し、五箇地区の皆様とともに本校の歩みを振り返るとともに、帝京安積高等学校和太鼓部のみなさんの記念演奏や、本校生徒の元気いっぱいのダンスパフォーマンスを通して、未来への希望あふれる集いとすることができました。学校の歴史や伝統とは、そこで学んだ人々がどれだけ価値ある人生を送ったかという、その一人一人の生き様そのものであると思います。そう考えれば、統合・閉校は「区切り」であり、「終わり」ではありません。閉校を一つの節目とし、自身の人生の輝かしい歴史を一ページ、また一ページと綴っていくことを大いに期待しています。



「あ・た・まを大切に！」

鮫川村立鮫川中学校

本校のスローガンは、

「あたまを大切に！」

(あ:明るく、た:楽しく、ま:前向きに) です。

人生、思い通りにいくときもあれば、思い通りにいかないときもあります。そういうときに、逃げ出さずに、明るく前向きにチャレンジしようということです。あたまをよくしようということではありません。

生徒会では、一人ひとりの個性を輝かせ、それと共に時世を表現するような活動や成果を残せるにぎやかな学校にしたいと考え「百花繚乱」をスローガンに掲げ、

- 自分に自信をもちましょう。
- お互いの個性を尊重しあいましょう。
- 相手の気持ちを理解しましょう。
- 誰にでも明るいあいさつをしましょう。
- 最後までやり遂げましょう。

と全校生に呼びかけ活動しています。スポーツ大会、文化祭、体験活動、クリスマスイベントなど、「あたまを大切に」した取組が見られ、生徒一人ひとり輝いています。



一年を振り返って～新任の先生方から～



「努力し続ける学校に」

中島村立滑津小学校

校長 柳沼 典正

4月に滑津小に新任校長として赴任して早1年。私の1日は、朝の交通指導、子ども達と一緒に朝のマラソンから始まり、赤ペンとデジカメ持参で教室を訪問しては、丸付けをして子ども達を励まし、また、頑張る姿を撮影しては、HPで発信するという充実の毎日でした。

特に、中島村重点5項目の1つである「褒めて伸ばす」ことを通して「当たり前のことを当たり前でできる子ども」を目指し、全職員で1年間、実践して参りました。

今後も「チーム滑津」を合い言葉に、組織の力を生かして、努力し続ける学校にして参りたいと思います。



「頼られる嬉しさ」

白河市立表郷小学校

教頭 関根 哲宏

教頭の仕事は、校長先生を補佐することを始め、校務の整理、児童への指導、保護者との関わり、ハチの巢の処理、ガラス破損の報告・・・など実に多岐に渡るものでした。大変な場合もありましたが、一つ一つにやり甲斐があり、学びがあり、楽しかったです。なぜかと言えば、自分が「頼られたから」です。先生方、子ども達、保護者、地域の方が「教頭先生…」と自分を頼りにしてくれたからです。だから誠意を持って対応しました。十分だったかは分かりません。今後もさらに自分を磨き、「頼ってよかった」と思われる教頭を目指していきたいです。



「きっかけの種をちりばめて」

矢祭町立矢祭小学校

養護教諭 佐藤 結奈

着任してからの1年間、子どもたちの成長のはやさには驚かされるばかりでした。子どもたちとの様々なやり取りの中で、子どもたちの成長のきっかけはほんの些細な日常の関わりの中にあると感じます。そして、子どもたちには心がちょっとでも揺れ動くような体験に数多く出逢い、生きる上で役立つ力や感性を身につけていってほしいと願っています。だから私は、たとえすべての子の心に留めてもらうことはできなくとも、日常の中に心が揺れ動くようなきっかけの種を惜しみなく折々にちりばめられる教育者でありたいと思っています。



「支えられた1年」

福島県立西郷支援学校

教諭 須田 耕介

この1年を振り返ると、周りの方々に励まされ支えられた日々だったことを実感します。期待と希望をもって迎えた4月、児童との関わり方や研究授業など、考え悩むこともありましたが、児童の笑顔や先生方の助言に支えられ、教師としての一步を踏み出すことができました。様々な挑戦と工夫・改善を繰り返し、指導の在り方を学び、児童や先生方と共に過ごすことで毎日のように新たな気付きを得ています。これからも学び続け、児童をはじめ周りの方々をしっかりと支えられる一人前の教師を目指して、努力し続けたいと思います。

令和5年度事業取組校紹介

- ふくしま学力向上支援事業
- ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業
- 小中英語パートナーシップ事業
- 道徳教育総合支援事業
- キャリア教育推進事業
- ふくしま「未来の教室」授業充実事業
- 次世代のためのメディアリテラシー育成事業
- 理数教育優秀教員活用事業：算数・数学コアティーチャー
：理科コアティーチャー
- 不登校・いじめ等対策推進事業：スハ°シャルサホ°ートルーム
：いじめ防止ラウンドテーブル
：学習サホ°ーター
- コミュニケーション能力育成事業
- 「ふくしま活用力育成シート」実践事業
- ふくしまの未来を拓く産業人材育成事業
「専門高校生による小中学生体験学習応援事業」
- 「“ひがししらかわ”輝くふる郷」体験事業
- スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業
- スクールカウンセラー派遣事業

- 〈所属校〉 棚倉小 〈勤務校〉 社川小 近津小 棚倉中
- 〈本務校〉 みさか小 矢吹小 棚倉小 西郷一中
- 〈拠点校〉 米小 西郷一中 〈協力校〉 熊倉小 羽太小
- 〈推進校〉 光南高校
- 〈モデル校〉 棚倉中
- 〈実践校〉 善郷小 矢吹中
- 〈研究校〉 表郷小 表郷中
- 〈配置校〉 塙小 白河二中
- 〈配置校〉 白河二小 東北中
- 〈実践校〉 白河二小 白河二中 棚倉中
- 〈推進校〉 白河中央中
- 〈村への派遣〉 泉崎村 鮫川村
- 〈モデル校〉 白河二中
- 〈実践校〉 域内のすべての小・中学校
- 〈体験校〉 白河五小 近津小 東中 鮫川中
- 〈実施校〉 白河実業高校 修明高校
- 〈実践校〉 東白川郡内全小学校 8校
- 〈委託〉 西郷村 中島村 矢吹町 棚倉町 塙町 矢祭町
- 〈配置校〉 白河二小 みさか小 表郷小 熊倉小 小田倉小 滑津小 中畑小 三神小 善郷小 棚倉小 塙小 域内全中学校

